

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (39)



～ 「共に育つ」 一の学校 おもとだよ ～

石垣市立大本小学校 校長 金城 一石

「校長先生、ビーチクリーンしたいですね。」これはちょうど一年前、サンゴ学習を終えたあとに、砂浜を歩きながら当時の6年生が話しかけてきた言葉です。昨年度から始めたサンゴ学習。豊かな体験活動は、ここまで子どもたちの心を動かす原動力になるのかと実感した瞬間でした。学習を終えたあとに次の目標を掲げてきた子どもたち。この思いに心打たれたまわりの大人が奔走し、昨年の卒業式間近にビーチクリーンを実現させることができました。自分たちが思いついた次の行動目標が実現したことで、「よし、次も自信をもって声に出していいんだ。」というチャレンジ精神に繋がります。このように考えると、本市が掲げる「勇気づけの教育」は、日常生活のあらゆる場面で実践することができます。



さて、本校は今年度で創立64周年を迎え、児童数5名、職員数9名の極小規模校です。校訓である「共に育つ」は、何をするにも全員で取り組む本校ならではの言葉です。県下最高峰の於茂登岳の麓に位置し、校舎からは石垣島空港～市街地まで一望できる大パノラマが広がっています。それでは、花と緑と野鳥の学校、大本小学校の取り組みについて紹介します。

一つ目は、児童会企画「にこにこプロジェクト」です。「コロナに負けず、みんなで体を動かして、元気いっぱいの学校にしたい」「先生方との触れ合いを増やし、楽しい思い出を作りたい」を目的に、昨年度途中からスタートした企画です。児童会役員の思いを受け、児童会担当の職員がしっかりサポートして、企画書を持参して校長室に訪ねてきたのが昨年の10月。企画→ポスターによる開催告知→当日の運営→表彰式(MVPへの賞状)と一連の流れを自分たちの手で作り上げています。今年度もこの企画を引き継ぎ「にこにこプロジェクトⅡ」として学校を大いに盛り上げてくれています。多忙な中、本校職員も可能な限り参加することで子どもたちのがんばりを承認し、次のチャレンジへ気持ちが向かうように支援しています。子どもたちも自分たちが中心となって運営するんだ！という強い気持ちで取り組み、自己有用感の醸成に繋がっています。

二つ目は、地域と連携した生産活動です。地域の皆さんに協力してもらいながら、夏野菜と冬野菜の生産活動に取り組んでいます。児童一人一人が責任をもって育ててくれるように、種まきの際には区分けをして、一人一人の分担を明確にしています。そうすることで、子どもたちは担任と一緒に毎日の水やり、定期的な雑草抜きにも主体的に取り組むことができ、芽が出たときや実がなったときの表情には達成感が滲み出ています。本校では収穫した野菜を無人販売しており、児童も職員も毎日の販売実績に一喜一憂しています。地域の皆さんや道行くドライバーの皆さんも本校の無人販売のことはよく知っており、通りすがりに速度を落としてチェックしたり、実際に車を止めて購入したりする方もたくさんいらっしゃいます。もちろん、売り上げは子どもたちが興味・関心をもつような教具や教材の購入に充ててい

ます。このように、地域と連携した生産活動を通して、子どもたちは食物生産の地道な努力から収穫の喜び・販売の楽しさを知り、次へのチャレンジ意欲へと繋げていきます。

三つ目は、年3回の家庭学習強化月間における取り組みです。生活リズムを整え、家庭学習の習慣を身につけるために実施しています。親子での生活リズムチェックやがんばりコメント、ノート激励等に取り組んでいます。特にがんばりコメントでは、黒板に貼り出されたがんばりノートをお互いに参観し、よさや工夫されているところを付箋紙に書き出し、認め合っています。この効果は絶大で、「次はどのような工夫をして家庭学習に取り組むか」「〇〇さんの学習の仕方がよかったから、自分なりにアレンジしながら真似してみよう」といった次へのチャレンジ意欲へ繋がっています。

以上、三つの取り組みを紹介しましたが、本校ではこれ以外にも日々の教育活動の中で子どもたち一人一人のよさやがんばりを認めることを共通実践にして取り組んでいます。例えば、ノート激励や音読認定では、校長室で児童一人一人に対してよさやがんばりを具体的に示して認めほめるように心がけています。「やったあ！」と言ってガッツポーズする子や満面の笑みを浮かべる子等、合格をもらった子どもたちの様子を見てみると、認めほめられたことで自信に繋がっていることが実感できます。このような勇気づけの教育を通して、子どもたちの笑顔あふれる、安心安全な学校づくりに取り組んでいます。

大本小学校では「子どもたちはよさやがんばりを認めてもらうため」「教職員は子どもたちのよさやがんばりを認めほめるため」今日も元気よく登校・出勤しています。